2022（令和4）年度 部局マニフェスト
～私たちの組織使命と目標～

部局名	上野総合市民病院
役　職	副院長
氏　名	松田克彦
連絡先	0595-24-1111

業績目標の達成状況
5. 先進的な取り組みを行い、成果があった
4. 達成水準を上回る成果があった
3. 業績目標を達成した
2. 取り組んだが、業績目標を達成しなかった
1. 業績目標に取り組まなかった

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標1	関連の施策・基本事業No　1-2 ④					
市民が安心できる医療を提供するため経営の安定化	病院経営の安定化	〈現在の状態〉 第2次市民病院改革プラン（2017年度～2020年度）の目標「基準外繰入金なしで赤字から脱却」を達成したが、新型コロナウイルス感染症の影響により医業収入が減少している。 ↓ 〈達成目標〉 基準外繰入金に頼らず、基準内繰入金（6億21百万円）だけで経営を行う。キャッシュフローは10億円以上を維持する。 ※目標が達成した状態 医療提供体制の向上に必要な医療機器の更新や施設・設備の改修、職員の各種研修への参加等を積極的に行う財政的な余裕が生まれ、医療の質が向上する。	・職員の経営意識の向上 ・新たな施設基準の届け出とDPC機能評価係数の引き上げ ・開業医、施設との連携による紹介患者数の増 ・経費削減	▶	3	新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少が流行前（令和元年度）の数字まで回復せず、2月末までの診療収入は昨年度より3.4%の増加に留まった。このためコロナ空床確保補助金を約4億円確保するとともに、節電等の経費削減に努め、基準内繰入金だけで黒字にできる見込みとなっている。 想定を超える光熱水費の値上がりに対応し、「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」を活用した繰入金7,720千円を受け入れたが、これは活用すべき基準外繰入金であったと考えている。 診療報酬改定により、10月以降の地域包括ケア病棟への自院以外からの入院患者割合が40%以上と条件づけられたことに病院を挙げて対応したことにより、約8千万円の減収を免れることができた。 開業医訪問により連携を強化し、当院への紹介患者数が2月末までで3991人となり昨年度より約9%増加した。 キャッシュフローは2月末で約11億円となっている。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標2	関連の施策・基本事業No　1-2 ④					
中長期的に当院が求められる医療の持続的な提供	「第3次市民病院改革プラン（仮称）」（計画期間：策定年度～2027（令和9）年度）の策定	〈現在の状態〉 令和4年3月に総務省から「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」が発出された。 ↓ 〈達成目標〉 ・「改革プラン策定に向けた基本的な考え方」を策定　令和4年度内 ・改革プランを策定　令和5年度内 ※目標が達成した状態 改革プランが策定され、目標年度に向けた取り組みが開始する。	・県が同時期に策定する第7次三重県医療計画（2024（令和6）年度～）との整合 ・三重県地域医療構想との整合 ・「伊賀市地域医療戦略2025」など医療福祉関係計画との整合 ・地域福祉計画推進委員会での意見聴取	▶	3	三重県地域医療構想調整会議における協議の進展がなく、国が策定する第8次医療計画ガイドラインも確定していないことから、三重県内のすべての公立病院がプランの策定を令和5年度に先送りしている。 このため、今後の当院の果たすべき役割や病棟の活用方法などについて院内で検討を進めているが、地域医療構想への対応について三重県から具体的な考え方が示されないと、当院の将来像について議論を深めることは出来ない。 このため、今後、県から何らかの方向性等が示された時点で直ちに策定作業に着手出来るよう、情報収集に努めている。
◎部局目標3	関連の施策・基本事業No　1-2 ④					
医師の確保による病院の診療能力の向上	常勤・非常勤医師の確保	〈現在の状態〉 常勤医師は24名で、総合診療科、内科、放射線科、麻酔科の常勤または非常勤医師の確保がとくに必要。 ↓ 〈達成目標〉 2名以上の医師を確保する。 ※目標が達成した状態 医療提供体制がより充実する。	・三重大学、関西医科大学、滋賀医科大学の各医局との連携 ・協力型臨床研修病院から基幹型臨床研修病院への移行	▶	3	三重大学の総合診療科教授を講師に迎えた院内研修会を1回開催、また、放射線科教授を1回訪問して当院の派遣要請を行った。 総合診療科については、今後、三重大学と当院が寄附講座を設置している関西医科大学総合診療科との連携に道筋が開けた。これにより、将来的に複数の常勤総合診療医が当院で内科や救急科を担うことが期待できる。 7月に外科医1名を確保することができた。 また幹型臨床研修病院の指定申請を10月末に行い、令和5年3月に三重県から指定を受けることができた。そのため、令和6年度から初期研修医の受入れができるので、募集活動を開始した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標4	関連の施策・基本事業No　1-2 ④					
伊賀地域の二次救急医療体制の充実	当番日における二次救急患者の確実な受け入れ	〈現在の状態〉 救急当番時間帯における依頼に対する受入率は約99%となっている。 ↓ 〈達成目標〉 受入率99%を維持する。 ※目標が達成した状態 二次救急患者の治療開始までの時間短縮により、救命率向上や後遺障害軽減につながる。	・受け入れできなかった事例について、週1回の会議で妥当性の検証 ・当番日の非常勤医師確保	▶	4	12月末までの時間外救急の受入率は99%を維持している。 滋賀医科大学に新しく赴任した救急科教授を訪問し、救急当番日の非常勤医師の派遣に快諾を得た。このため、内科および外科の複数の医師の定期派遣を受けられることとなり、半年先までの当番日の担当医をスムーズに決めることができるようになった。
◎部局目標5	関連の施策・基本事業No　1-2 ④					
一般医療と新型コロナウイルス感染症の医療の両立による地域医療への貢献	一般医療と新型コロナウイルス感染症の医療の両立	〈現在の状態〉 院内感染対策の取組により、これまで院内感染を発生させていない。 ↓ 〈達成目標〉 院内におけるクラスターの発生を0件とする。 ※目標が達成した状態 患者が安心して治療を受けることができる。	・院内感染対策の徹底 ・医療機器と感染防護具の確保 ・国・県補助金の確保 ・ワクチン接種の実施 ・発熱外来の実施	▶	2	2月末までに2,208件の行政検査2,627件のワクチン接種を行うとともに、発熱外来と入院患者の受け入れを行った。 職員に対して繰り返し注意喚起を行い、感染対策の徹底に取り組んだが、11月以降に2つの病棟で複数の患者と職員が感染した。 ただ、他病棟への感染拡大を防ぎ、外来、手術、入院及び救急患者受け入れを止めることなく、継続して実施することができた。